

秋から冬に向けたほ育牛の管理

ほ育牛の適温は 15~25℃といわれていますが、これからの季節はこの温度帯を下回る環境で飼養されることが多いと思います。寒くなるこれからの季節の対策として①ミルク（代用乳）の増給と②飼養環境の2つのポイントについて説明します。

1 ミルク（代用乳）の増給

子牛を飼養している環境温度が下がると、体重維持に必要なミルクの量が増加します。寒くなるこの時期から、ミルク（代用乳）の増給をお勧めします。

ほ乳牛を寒さに対応させるためには、

- ①ミルクの給与量を増やす
 - ②銘柄の指定する基準内で、濃度を高める
 - ③代用乳を脂肪の多い銘柄に切り替える
- 等を行うことで、代用乳の摂取量を高めるような対応が有効です。

ただし、①~③のような急な変化は、子牛のストレスとなるため、ほ乳途中の子牛のミルクは変更せず、新たに出生した子牛からほ乳プログラムを切り替えましょう。



たっぷりミルクに合わせて
スタータ（人工乳）と
冷水ではなく、ぬるま湯も
一緒に給与!!

図1 ほ乳中の子牛

2 ほ育牛の体温をうばわない&換気された飼養管理

体が小さくまだ体内に十分な脂肪を蓄えていないほ育牛は、寒さの影響を強く受けます。しかし、寒さ対策ばかりに目が行き換気をおろそかにすると、肺炎などの呼吸器の疾病に繋がります。“温度を保つ”かつ“換気も行う”、これを両立させる管理が重要です。

暖かい日中に開放して換気

ペンやハッチを南向きに置き、
日光が中に入るように

ペン上部を開閉
寒いときは閉めて熱の放散
を抑制
日中などは開放して、空気
がこもらないようにする

被毛が汚れる（ぬれる）と・・・
被毛が乾いているときよりも、
熱がうばわれやすくなる
敷料をたっぷり入れて、
下痢などで汚れた部分は撤去

外気などの冷気が直接体に
あたるとほ育牛の体温をうば
う原因!
すきま風を入れない工夫を!!

冷えた床のコンクリートとほ育牛が
直接接触ないように!
敷料を増やしたりすのこを入れるなど、
床からの距離を確保!!

図2 寒い季節のほ乳牛の飼養環境のポイント

不明な点や、もっと詳しい情報が欲しい方は
宗谷農業改良普及センター（TEL01634-6-1414）まで御連絡下さい。

右のQRコードから
普及センターHPに
移動出来ます。

